

自己評価・学校関係者評価結果公表シート

2025年度

明星幼稚園

1. 園の教育目標

ビジョン

- ・すべての園児が自信をもって生活できる幼稚園
- ・自分だけでなく友だちを大切にできる幼稚園
- ・好奇心を育み、自分の「好き」をたくさんみつげられる幼稚園

教育目標

「多様性を認め、未来を切りひらく子の育成」

2. 本年度に定めた重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した学校評価の具体的な目標や計画

2-1. 全体事業計画

(1) 知的好奇心と探究心、人間性を育む学びの推進

明星幼稚園のビジョン及び教育目標を実現するため、探究心と人間性を育む「遊びの中の学び」の環境として「学びの空間（教室）、学びの園庭」を構築します。また、学年ごとにステップアップする体系化した明星幼稚園オリジナルの探究プログラム「めばえの時間」の質の向上を目指し、再構成していきます。

- ◆ プログラム、活動の相互の結びつきを振り返り、より効果的なカリキュラム策定を行います。
- ◆ ガーデニングタイムを柱とした、学びの園庭の環境整備を進め、園児の探究心の向上が生まれる学びの場を作り「遊びの中の学び」を実現します。
- ◆ 年長対象の宇宙教育（植松電機協力）、年中対象のサイエンス教室（明星大学連携）などの活動を継続し、探究心を高められるサイエンス教育に注力します。

(2) 幼小連携の強化

- ◆ 幼小の組織としての連携プログラムを深掘りし、教員・園児・児童ともに相互理解の場を積極的に設け、なだらかな接続の実現と内部進学率の向上を目指します。
- ◆ 幼稚園・小学校教員の合同研修を実施し、教育力の向上を図り、明星学苑の一貫教育（15カ年一貫教育）の中での幼稚園の位置づけの重要性を確かなものにします。

上述の「めばえの時間」については、明星小学校における探究学習（くぬぎの時間）に接続するカリキュラム構成で、明星幼稚園から明星小学校に内部進学する園児たちがつながりを意識した学びを深めることができる組み立てとしています。

2025年度は、幼小連携教育プログラムとしてのより効果的な「探究活動」（「のびのびタイム」、保護者の参観を一緒にした子どもたち同士の交流体験「にこにこの日」など）を行うとともに、英語や音楽、図工や理数といった面でも幼稚園の教師と小学校の教師と一緒に授業を行い、幼児期の育ちの理解の機会を計画的に立案、実践していきます。

(3)教育力の向上

「遊びの中の学び」をテーマに、遊びを次の3つに捉えて、それぞれの遊びの質の向上を図ってきます。

- ◆ 自分で選んで遊ぶ「選択制あそび」
- ◆ 同じテーマで遊ぶ「プロジェクトあそび」
- ◆ 心身の健康を育む「運動あそび」

それぞれの遊びの中で生まれてくる学びを上手に引き出すには、教師の力が必要です。そこで、年間で計画した園内研究会・研修会、幼小合同研修会、小学校の授業参観などを通して、小学校教師と一緒に保育活動づくりを行い、園児たちに還元できる教員の教師力向上を図ります。

(4)教育環境の整備

上記に述べた「探究活動」を実践するうえで、重要な教師力、教育環境、遊具などのあり方について見直しを行います。特に、生活時程表、カリキュラムの見直し、特別な空間（教室）、学びの園庭の設置、必要な教師力などの観点から、教育の質の向上を図っていきます。

(5)教育内容の改革を実現する組織経営の強化

教育改革を実現するために、幼小の管理職の一体化を活用して、幼小教員の人事交流を推進し、幼・小連携の充実を図ります。これにより、内部進学者が安心して小学校へ進学できる環境整備を強化するとともに幼小一貫の教育カリキュラムへの実現を目指します。

(6)広報活動の強化

明星幼稚園ブランドとして「遊びの中の学び」を実現する教育プログラム「めばえの時間」を中核に据え、広域的な広報を展開していきます。具体的には、ホームページのリニューアル、広報活動の強化を重点的に行い、明星幼稚園の教育力を発信します。また、幼小連携を強化し、明星幼稚園のブランドと一貫教育のよさを入園候補者に向け分かりやすく情報発信していきます。さらに、保護者、地域の方々と一緒に活動する交流活動を充実させていきます。

2-2. 学年毎の計画

(1) 年少

- ①集団生活に必要なルールや決まりを守ろうとする
- ②動植物（昆虫含む）の世話や観察を通して、育てることの大切さ、命を大事に思う気持ちを知り、感動や喜びを分かち合う
- ③人との繋がりに必要な言葉のやり取りを学び、友だちや保育者と伝え合う

(2) 年中

- ①自分の思いを言葉で表し、相手に伝えようとする
- ②友だちとの協同活動に進んで取り組み、集団活動を楽しむ
- ③動植物（昆虫含む）の世話や観察を通して、育てることの大切さや、命を大事に思う気持ちを知り、感動や喜びを分かち合う

(3) 年長

- ①自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりしながら、互いに心地よく生活をすすめる
- ②様々な活動に意欲的に取り組んだり、苦手な事にも向き合ったりしながら、達成感や充実感を味わう
- ③就学に向けて、自ら主体的に考える習慣を身に付け、学びにつながる力を伸ばす

3-1. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
(1) 知的好奇心と探究心、人間性を育む学びを推進	A	<p>学年毎にステップアップする体系化した明星幼稚園オリジナル探究プログラム「めばえの時間」を新しい時程の中に埋め込み活動を実践しながらその質の向上を図った。</p> <p>2025年度も前年に引き続き「ガーデニングタイム」に全学年で意欲的に取り組んできた。園庭の植栽環境の充実、収穫体験からの食育、野鳥をよぶ巣箱の設置など、園児の興味関心の幅を広げ探究心を高めるための取り組みである。</p> <p>専門家の力も借りながら、園児自身が環境づくりに携わることで大きな学びにつながったと考える。</p> <p>めばえの時間の活動の認知度は全学年で100%と高く、特に「ガーデニングタイム」、「劇あそび」、「英語あそび」については、家庭での会話が弾んだ取り組みとして高い評価を受けることができた。</p> <p>【保護者アンケート結果】 「探究活動「めばえの時間」を実施していることを知っています</p>

	<p>か。」 「知っている」 全学年 100%</p> <ul style="list-style-type: none"> ・明星大学工学部と連携した「サイエンス教室」（年中）、(株)植松電機協力の「ロケット教室」（年長）なども、心動く本物の体験として話題になったようだ。 <p>【保護者アンケート結果】 「ガーデニングタイムを通して、動植物（昆虫を含む）に興味を持ち、観察したり世話をしたりすることで、自然への興味の幅を広げている。」 「とてもそう思う」「そう思う」 年中長組 合計 91% 年少組 合計 93%</p> <p>【保護者アンケート結果】 ◎「英語あそび」で、英語を身近に感じ、楽しみながら英語に興味を持つようになりましたか。」 「とてもそう思う」「そう思う」 年中長組 合計 84% 年少組 合計 74%</p> <p>【保護者アンケート結果】 ◎「英語あそび」で、異文化に触れ、興味関心が世界に広がっていますか。」 「とてもそう思う」「そう思う」 年中長組 合計 65% 年少組 合計 64%</p> <p>【保護者アンケート結果】 ◎「ガーデニングタイムは、「あそびの中の学び」につながる活動だと思いますか。」 「とてもそう思う」「そう思う」 年中長組 合計 93% 年少組 合計 100%</p> <p>その他の探究活動としては以下の通り。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○全学年：「臨床美術」、「英語あそび」、「運動あそび」「劇あそび」、「食育」 ○年長組：宇宙教育 「バルーンロケット」・・・3年目 「ロケット教室」((株)植松電機協力)・・・3年目 ○年中組：「サイエンス教室」（明星大学工学部協力） ○年少組：「運動あそび」（幼児体育連盟指導員）
<p>(2) 幼小連携の強化</p>	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小教育センター準備室が活動の中心となって、就学体験、園児、児童の合同活動を実施することができた。 ・小学校への内部進学者は25名(41%)で、昨年度23名(32%)から9%増と進学率は高まったものの、年長園児の母数減少(73名⇒61名)から進学者数は微増でした。 ・内部進学希望者に対して、例年同様に入学試験体験会を実施し、好評価を得た。 ・園児児童の合同活動「にこにこの日」、就学体験「のびのびタイ

		<p>ム」を定期的実施し、幼小の連携の場を保護者に参観してもらう機会を持たた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・幼小連携活動として、全学年を対象に音楽（リトミック）、英語の活動を小学校の専科教員が行う場を定期的を持った。専科教員による専門的な活動の機会は、園児だけでなく教員にとっても有意義な機会となった。 ・一貫教育の推進に関わる<u>教育的な活動</u>については、概ね満足できる結果となったと言える。
(3) 教育力の向上	A	<ul style="list-style-type: none"> ・2025年度より園務分掌に企画推進部を新設した。企画推進主任が研修、研究のイニシアチブを担うことになり、昨年以上に計画的に推進してきた。 ・全教員で年間4回の研修会の機会を持った。第1回園内研修会では、定期的に絵本を購入している出版社による「絵本の効果的な読み聞かせ」についての講演、第2回目は園長による「パターンプロック」での遊ばせ方、第3回目はガーデニングタイムでサポートいただいている園芸の専門家による植物の栽培、食育の講演、第4回目は筑波大付属小学校の音楽専科によるリトミック体験を行い、教育力の向上を図ることができた。 ・幼小合同研修会を年間2回実施した。幼小それぞれの教育活動を参観し合い、学びの連続性、接続についての意見交換を行った。総合学園ならではの利点を生かした貴重な機会になったと考える。 ・府中市幼稚園協会主催の年間10回の研修会、夏期、冬期の休業期間を活用した研修会への参加による自己研鑽などで指導力の向上に努めることができた。
(4) 教育環境の整備	A	<ul style="list-style-type: none"> ・園バスの増便により生活時間が拡充され、新たに生活時程表の見直しを行い、全園児揃っての共通の活動時間が増えた。 ・カリキュラムの見直しを行い、幼小連携活動（音楽、英語）、朝の体操・運動を行う帯活動などを新たに設定し実践することができた。 ・幼小連携活動を実施する部屋として1階と2階にそれぞれ一部屋ずつappleTVを設置しICTを活用した活動がしやすい環境を整えた。 ・学びの園庭の環境づくりは一層発展し、鳥の巣箱の設置、子どもたちの興味関心を引き出す植栽の選定、栽培などを実施してきた。
(5) 教育内容の改革を実現する組織経営の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・幼小教育センターの責任者も加わった幼小管理職会議を新たに月1回設定し、幼小連携の強化を図った。 ・幼小教育センターとの業務の分担が明確でなかったところもあり、

		連携の在り方に関して課題が残った。
(6) 広報活動の強化	B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育プログラム「めばえの時間」を中核に据え、成果をもとに積極的な広報を展開できた。 ・府中校事務との連携も広報活動を推進する上で大きな原動力となった。 ・異校種間交流を含め、一貫校ならではの教育のよさを入園希望者に向け分かりやすく情報発信することができた。 ・保護者、地域の方々と一緒に活動する交流活動を企画したが、効果的な機会を持つには至らなかった。 ・2025年度から園バスを1台増便し、生活時程の拡充、及び教育活動のさらなる推進を広報活動の上でも訴えてきた。しかし、周辺の園児の減少を考えると、2026年度の園児募集は年少48名（昨年度より+6名）と微増なもの、2026年度全園児数は151名で（2025年度より-7名）でのスタートとなり、課題が残ることとなった。 ・預かり保育時間帯の拡充、夜間バスの導入など、預かり保育の充実を広報活動で全面的に訴えてきたが、園児募集の成果ははっきり得られたとは言えない。

3-2. 評価項目の達成及び取組状況（学年毎の計画）

評価項目	結果	理由
(1) 年少組 年少① 集団生活に必要なルールや決まりを守ろうとする	A	<p>【保護者アンケート結果】 「集団生活に必要なルールや決まりを守り、友だちとのつながりを広げることが出来るようになった。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 88%</p> <p>【保護者アンケート結果】 「社会生活における望ましい「態度や習慣」、「他者への思いやり」、「協同の精神」が芽生えましたか。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 90%</p> <p>【ループリック評価】（年度末） 領域「道徳心の芽生えを育む」 テーマ：「集団生活に必要なルールや決まりを守る」 2.35/5.0</p> <p>◆入園当初、実習前実習の大学生がいる期間に手洗いうがい指導ができたことで、子どもたちにも身に付き、進んで行う姿が見られている。慣れてきたことで羽目を外すことがあるが、着替えや身支度など、年長の手伝いがなくなってからは自分でやろうとする姿もあり、経験を積めば頑張れることも増えてきた。</p> <p>◆2学期は、運動会に参加したことで、クラスの一員としての自覚が</p>

	<p>少しずつ芽生え、個から集団へと視野を広げていくことができた。友だちとの関わりも増えてきたことで、良くも悪くも刺激を合う姿がある。1日の流れが定着し、生活ボードなどを駆使して自分たちで考えて動けるようになってきている。</p> <p>◆3学期は当番活動を通して、自分のことをやろうとしたり、友だちのために頑張るやりがいなどを感じられるようになってきた。できることが増えていくと、困っている友だちの助けを進んで行う姿も見られ、集団の一員としての自覚が芽生えている。生活ボードや絵カードでの指示もよく理解し、どうすればよいか自分で考えながら行動する力も育ってきている。</p>
<p>年少② 動植物（昆虫含む）の世話や観察を通して、育てることの大切さ、命を大事に思う気持ちを知り、感動や喜びを分かち合う</p>	<p>B</p> <p>【保護者アンケート結果】 「ガーデニングタイムを通して、動植物（昆虫を含む）に興味を持ち、観察したり世話をしたりすることで、自然への興味の幅を広げている。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 93%</p> <p>【保護者アンケート結果】 「生活の中で新たな発見をし、感動や喜びを友だちと共有できるようようになった。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 83%</p> <p>【保護者アンケート結果】 「園はお子様に命の大切や、社会生活等を伝えられていると思いますか。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 95%</p> <p>【ループリック評価】（年度末） 領域「命の大切さを知り、生命を尊重できる心を育てる」 テーマ：「動植物（昆虫含む）に興味を持ち、観察したり世話をしたりする」 2.08/5.0</p> <p>◆1学期、ガーデニングタイムで育てたトマトときゅうりだけでなく、トウモロコシや枝豆なども収穫したり会食したりする機会が多く、より身近に感じながら活動を楽しむことができた。苦手でも食べてみようとするきっかけになっていた。</p> <p>◆2学期は育てたものを食べたり、実ったものを食べたりと収穫体験を同時に行える機会が多かったことで、食への興味関心がとても高まった。中庭にプランターがあることで子どもの目にもつきやすく、生長を見守るのが生活の流れの中でできていたことも良かった。</p> <p>◆朝の体操終わりや戸外遊びの前にプランターを観察し、子どもたちにとって植物が身近な存在になっていた。今まで漠然と認識していた鳥についても、生態や特徴を知る機会があったことで世界を広げていくいいきっかけとなった。冬野菜の生長がよく、会食までできればよかったのだが、そこまでには至らなかった。</p>

<p>年少③ 人との繋がりに必要な言葉のやり取りを学び、友だちや保育者と伝え合う</p>	<p>B</p> <p>【保護者アンケート結果】 「自分の思いを言葉で相手に伝えることが出来るようになった。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 93%</p> <p>【ループリック評価】（年度末） 領域「社会性、協同性を育てる」 テーマ：「自分の思いを言葉で相手に伝える」 1.81/5.0</p> <p>◆1 学期、泣いたり照れたりして言えない子も多いが、担任に促されれば言えたり、集団の中では挨拶やお礼ができたりと個人差はあれど成長を感じる場面はあった。「これやって」「やっておいて」など家庭でのやり取りと同一にならぬよう言い方を伝えたり、日頃のやり取りも丁寧に行うことを心掛けた。</p> <p>◆2 学期、友だちとの関わりが広がってきたことで遊び方に幅が出た。言葉でのやり取りも多くなったが、自分本位になったり口調が強くなったりすることが多く、状況に応じて援助したり、必要な言葉を一緒に考えたりしていった。ありがとうやごめんなさいも言えるようになってきたが、促されないといけない場面もまだまだ多い。</p> <p>◆3 学期は言葉を獲得したことで、やり取りが多くなり、子どもたち同士で遊びを発展させていくことも少しずつできるようになっている。人のことが気になり、自分のことは二の次で注意をしていることもあるが、正しいことだったり、言い方に気を付けたりする様子があり、集団としてのかかわり方が身に付いてきている。</p>
<p>(2) 年中組 年中① 自分の思いを言葉で表し、相手に伝えようとする</p>	<p>B</p> <p>【保護者アンケート結果】 「自分の思いを言葉で相手に伝えることが出来るようになった」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 96%</p> <p>【ループリック評価】（年度末） 領域「社会性、協働性を育てる」 テーマ：「自分の思いを言葉で相手に伝える」 2.94/5.0</p> <p>◆1 学期は、子どもたちとの信頼関係を築き、関係を深めることで対話が増えた。子ども同士のやり取りの中で上手く言葉が使えずにトラブルになることもあったが、まわりの友だちにも仲介に入ってもらうことで伝え方や語彙を増やした。</p> <p>◆2 学期、自分の思いを伝えようとしている姿が多く見られるようになった。言葉の使い方が分からなかったり、相手が嫌がるようなことを言ったりする姿も見られる。別の言い方を伝えることで、相手も嫌な気持ちになることなく思いを受け入れることができることや、きちんとした言葉を使うことの大切さを伝えていく。</p> <p>◆3 学期は語彙が増え、自分の気持ちを相手に伝えようとする姿はとも見られるようになった。相手が分かるような言葉を選んだり、伝わらなかった時には言い直すことも見られるようになった。反対に、わざと汚い言葉づかいをしたり、嫌な言葉を使う姿も見られるようになった。言葉の持つ意味を伝え、相手が傷つく言葉があることも知らせ、きちんとした言葉が使えるように引き続き指導していきたい。</p>

<p>年中② 友だちとの協同活動に進んで取り組み、集団活動を楽しむ</p>	<p>A</p>	<p>【保護者アンケート結果】 「友だちとの協同活動に進んで取り組み、集団活動を楽しめるようになった」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 100%</p> <p>【ループリック評価】（年度末） 領域「社会性、協働性を育てる」 テーマ：「友だちとの協同活動に進んで取り組もうとする」 3.16/5.0</p> <p>◆進級しクラス替えもあったが、新しいクラスや友だちにも慣れ、友だちの輪が広がったことで、様々な活動に積極的に参加する姿が見られるようになってきている。ルールのある遊び（鬼ごっこやだるまさんがころんだ等）でも、ルールを守って遊ぼうとする姿が多く見られた。</p> <p>◆2学期は運動会や発表会などクラスが一丸となって行う行事を経験したことで、力を合わせることの大切さや、集団生活の面白さを体験することが出来た。また、友だちと一緒に取り組むことで、大きな成功体験をとった。</p> <p>◆3学期、戸外では鬼ごっこや氷おに、室内ではかるたやカードゲームなど、ルールのある遊びを経験することで、約束を守って遊ぶ楽しさや友だちと一緒に遊ぶ楽しさを味わうことが出来た。また、クラスでの学級活動を通して、集団生活のあり方や大切さ、協同活動の楽しさを感じる事が出来た。クラスでの絆が深まり、クラスの一員であることの喜びや友だちと一緒に過ごせる嬉しさを大いに感じながら、進級に向けて楽しく過ごすことが出来た。</p>
<p>年中③ 動植物（昆虫含む）の世話や観察を通して、育てることの大切さや、命を大事に思う気持ちを知り、感動や喜びを分かち合う</p>	<p>A</p>	<p>【保護者アンケート結果】 「ガーデニングタイムを通して、動植物（昆虫を含む）に興味を持ち、観察したり世話をしたりすることで、自然への興味の幅を広げている。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 96%</p> <p>【保護者アンケート結果】 「園生活において、昆虫や魚などの小動物を身近に感じるようになりましたか。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 85%</p> <p>【保護者アンケート結果】 「園はお子様に命の大切や、社会生活等を伝えられていると思いますか。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 93%</p> <p>【ループリック評価】（年度末） 領域「命の大切さを知り、生命を尊重できる心を育てる」 テーマ：「動植物（昆虫含む）に興味を持ち、観察したり世話をしたりする」 2.90/5.0</p>

	<p>◆1 学期、アサガオやすいか等、ガーデニングタイム以外の時間にも積極的に栽培活動を行ったことで、子どもたちも積極的に水やりをしたり、観察する姿が見られた。また、各クラスで虫（蝶やカブトムシ等）の飼育も行い、蛹になる様子を見ることもできた。</p> <p>◆2 学期は稲刈り、ほうれんそうの収穫など、身近な植物や野菜を自分たちで収穫することで、命の大切さや尊さに気が付くことが出来た。特にほうれん草は収穫し、洗い、目の前で茹でたことで、苦手意識のある子もたくさん食べることが出来た。また、バッタ、とかげ、とんぼ、かまきりなどの昆虫にも出会い、触れることも楽しむことが出来た。</p> <p>◆3 学期は脱穀、もみすり、精米と、育てるだけでなく収穫し、会食までの行程を全て体験することで、大変さも感じる事が出来た。お米も釜で炊くことで、普段出来ない体験をすることが出来た。また、大根も収穫し、自分たちで洗うことで、より一層おいしく感じる事が出来た。また、ガーデニングタイムでシジュウカラについて教えてもらい、巣箱を設置すると、あまり興味を持たなかった子も鳥をよく見るようになり、良いきっかけとなった。一年を通して、植物のみならず、生き物にもたくさん触れ、命の大切さや育てる大変さ、感動や喜びをたくさん感じる事が出来た。</p>
<p>(3) 年長組 年長① 自分の思いを言葉で相手に伝えたり、相手の思いに気付いたりしながら、互いに心地よく生活をすすめる</p>	<p>A</p> <p>【保護者アンケート結果】 「自分の思いを言葉で相手に伝えることが出来るようになった。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 83%</p> <p>【保護者アンケート結果】 「相手の思いに気づき、集団での生活を充実させることが出来るようになった。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 85%</p> <p>【保護者アンケート結果】 「集団生活の中で友だちの気持ちに寄り添い、思いやりを持って接する心を持つことが出来ている。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 88%</p> <p>【ループリック評価】（年度末） 領域「社会性、協働性を育てる」 テーマ：「自分の思いを言葉で相手に伝える」 3.13/5.0</p> <p>◆進級当初は、コミュニケーション不足によりトラブルになってしまいうことが多かったが、友だちや担任との会話の中で自分の思いを伝えることができるようになり、トラブルも少なくなってきている。その反面、自分で解決できることも担任に報告したり、人のせいにしてしまったりする姿も見られるため、子ども同士で解決できることはしようという意識を持たせられるよう援助していく。</p> <p>◆2 学期は運動会や発表会など様々な活動を通して、自信がついてきたのと同時に、自分の気持ちや要求を遠慮なく伝えられるようになってきた。特に発表会では、登場人物の心情を理解して表現を自分なりに考えたり、感じたことを周囲の人に伝えたりしながら、積極的に活動する姿が見られた。関係が深まったことで、分かっているても楽しくなりすぎてしまったり不適切な言葉遣いをしてしまう場面も</p>

		<p>見られるため、親しい関係でも善悪を判断できるよう繰り返し指導していく必要がある。</p> <p>◆3学期は当番活動や話し合いなど、自分を見てもらったり、話を聞いてもらったりする経験を通して、更に自信が深まった。また、思い違いやトラブルなどはありつつも、相手の意見や思いを聞く機会も増え、少しずつ互いに折り合いをつけ、遊びや生活を進めることができるようになったことで、より集団生活を意識して過ごせるようになった。</p>
<p>年長② 様々な活動に意欲的に取り組んだり、苦手な事にも向き合ったりしながら、達成感や充実感を味わう</p>	<p>A</p>	<p>【保護者アンケート結果】 「様々な活動に意欲的に取り組んだり、苦手な事にも向き合ったりしながら、達成感や充実感を味わえるようになりましたか。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 96%</p> <p>【ループリック評価】（年度末） 領域「情熱と粘り強さを持ったやりぬく力を育てる」 テーマ：「様々な活動に意欲的に取り組み、諦めることなく向き合い、自己肯定感を味わうことができる」 2.93/5.0</p> <p>◆進級当初緊張していた子ども、少しずつ新しいクラスの雰囲気慣れ、自分を出しながら生活する姿が見られるようになった。運動あそびなど、友だちの姿を見て刺激を受けたり、やってみようとして挑戦したりすることで、少しずつ自信を持っているいろいろなことに取り組もうとする子が増えた。</p> <p>◆2学期は、友だちの姿に刺激を受け、苦手なことにも少し挑戦してみようという前向きな姿が見られるようになってきた。様々な活動の中で成功体験を積み重ねていく中で、次への挑戦へと繋がっている様子が見られる。保育者が声掛けをしなくても、すすんで友だちの姿を見て応援したり、助けようとしていたり、自分たちで考えながら行動している。</p> <p>◆3学期は、縄跳びや鉄棒など、繰り返し諦めずに何度も挑戦しながら遊んだり、友だちの姿を見て刺激を受けたりして、苦手なことにも向き合おうとする積極的な姿が見られる。また、友だちの姿を自然と応援したり、素敵なおところ、頑張っているところなどを認め合ったりするなど、互いにいい影響を与えあいながら達成感や充実感を味わうことができた。</p>
<p>年長③ 就学に向けて、自ら主体的に考える習慣を身に付け、学びにつながる力を伸ばす</p>	<p>B</p>	<p>【保護者アンケート結果】 ◎「就学に向けて、自ら主体的に考える習慣を身に付け、学びにつながる力を伸ばすことが出来ている。」 「とてもそう思う」「そう思う」 合計 77%</p> <p>◆様々な個性の子どもたちがいるが、友だち同士のトラブルでは、自分の思いを伝えることができる程度出来ていたため、言い方や状況の整理をしながら互いの意思疎通が図れるように援助してきた1学期であった。まだ自分の思いが優先していることが多いため、集団生活であることや年長児の自覚を持って生活することを日々伝えながら、過ごしていきたい。</p> <p>◆大きな行事が続いていた2学期だったが、それぞれが意欲的に生活</p>

	<p>し、互いの姿を見て応援したり、すすんで活動に参加したりする姿が見られた。発表会では、前に出ている役だけではなく、次の場面への準備や前に出ている他の役の友だちの姿を応援するなど、協同することを意識しながら練習できるように努めた。</p> <p>◆3学期は、めばえの時間などを通して、生活の中で就学を意識する機会が増えたことなどにより、小学校への期待を高めながら生活することができた。その一方で、けじめをつけた生活を心がけてきたが、話を聞く姿勢や態度、持ち物の管理などにおいて、それぞれが自発的に考え、より意識して過ごすことができればよかったと感じる場面が多く見られた。</p>
--	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結 果	理 由
B	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標実現のため、「遊びの中の学び」の観点から、保育園との差別化を図り、特色を出すために、園バスを1台増やし生活時程を変更して、探究心と人間性を育む環境「学びの空間（教室）、学びの園庭」、探究プログラム「めばえの時間」の質の向上、研修会の充実による教師力の質の向上を図った。保護者アンケート、教師の振り返りから一定の成果を上げることができたと判断した。 ・幼小連携に関しては、新しく発足した幼少教育センター準備室と協力しての動きだったが、業務分担がはっきりしなかったところもあり課題が残った。 ・多摩地区、特に府中地区での園児の減少に伴い、年々募集が苦しくなっている。そのための対応策として、府中市私立幼稚園協会に合同相談会の開催を呼びかけ、府中市の私立幼稚園14園が一堂に会するイベントを明星幼稚園が中心になって計画実施した。「やっぱり幼稚園！」をスローガンに、幼稚園の教育の質の高さを訴えるイベントになればと準備を進めた。当日は予想を上回る来場者があり、大盛況に終えることができた。14園を比較検討する機会となったことで、明星幼稚園への入園を決めるきっかけとした家庭もあった。（次年度第2回開催予定） ・未就園2歳児クラス（ぴよぴよクラスセカンド）、年少入園児数を確保することが重要課題であり、一定の成果を上げることができたものの、大きな入園者数増を得ることができなかつたところに、課題が残った。

◎「3.4」の評価結果の表示方法

A	十分達成されている
B	達成されている
C	取り組まれているが、成果が十分でない
D	取組が不十分である

5. 今後取り組むべき課題

課 題	具体的な取組方法
・重点事業の具現化	<ul style="list-style-type: none"> ・2026年度、2027年度の学苑の重点事業としての3つの柱（global教育、AI・理数教育、探究教育）の具現化を図るため、幼小教育センターを中心に幼小の連携の仕組みを構築していく。 ・音楽、理数面での小学校教員との連携システムを創る。
・明星幼稚園のブランド化を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・「理数の眼を培う幼稚園」を一つのブランドとして広報活動を行っていくとともに「遊びの中の学び」で理数の眼を育てる豊かな活動を創っていく。 ・教師力を一つのブランドとして広報活動を充実していくとともに、研修会等を活用して教師の質のさらなる向上を図る。
・入園者増を図る	<ul style="list-style-type: none"> ・入園者増に繋がる手立てを考え、できる施策から実践していく。（例えば、理数と幼稚園というブランド化とその広報活動、入園金の兄弟・姉妹割り引き、ぴよぴよセカンドクラスの充実など）

※記入に際しての留意点

- 「3. 評価項目の達成及び取組状況」の理由については、指標や基準等の内容に基づいた成果や取組の状況、評価結果の根拠を記入する。
- 「4. 学校評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果」については、「3. 評価項目の達成及び取組状況」を総合的に評価して記入する。
- 「5. 今後取り組むべき課題」については、評価項目を課題とするだけでなく、指標や基準等、できるだけ具体的な視点から課題を記入することが望ましい。
- このシートを作成するに当たり、教職員の「個人評価シート」や、個々の指標や基準等を評価する「補助シート」を作成することも考えられる。